

学校通信

学校生活における大切なお知らせです

6

2026 JUN

第 277 号

学校長からのメッセージ

みなさんは小学校の頃「夏休みの宿題を先にするタイプでしたか？それとも追い込まれてからするタイプでしたか？」私は、計算ドリルなどすぐできるものは先に終わらせ、読書感想文や自由研究は最後に追い込まれてするタイプでした。

そんな私は、ある資格を取得しようとゴールデンウィーク中に参考書を購入しました。6月の受験に向けて意気込んでいたものの、最初の熱量はどこへやら、日々の慌ただしさを言い訳に全く手がかかず、結局受験を延期することにしました。「がんばろう！」とスタートしても、ペースが掴めず期限が迫って焦る。そんな経験は誰しもあるのではないのでしょうか。

その時は延期という選択ができましたが、人生においては、そうはいかないこともあります。しかし、頭ではわかっているのに難しい瞬間はあります。「時間を守ること」や「提出期限を守ること」。こうした「小さな誠実さ」の積み重ねこそが、周囲との確かな信頼関係を築く土台になります。

さて、6月に入り、レポート提出のゴールが少しずつ見え始めてきました。今、順調に学習ペースが掴めている人は、ぜひその調子を維持してください。もしペースが掴めず焦っている人がいたら、まずはスクーリングに積極的に参加してみましょう。そうすることで、いつのまにか学習やレポート作成のリズムが生まれてきます。

完璧を求めるあまり「もう無理だ」と全てを諦めてしまう必要はありません。全部書けていなくても大丈夫、レポートの合格点は60点以上です。「すべてのレポートを全部完璧に書く」のではなく、「1つでも多くの単位修得を目指す」という意識に切り替えて、取り組みやすいものから1つずつクリアしていきましょう。

「そもそもどうすればいいかわからない」、という人は、すぐに担任や話しやすい先生に相談してください。大丈夫、まだ間に合います。「3つの約束」にある、「自分の学びをあきらめず、自ら学ぶ姿勢」を、教職員一同、精一杯応援しています！

(校長 池田 博人)

「ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。」 (ルカによる福音書 16章 10節)





今月の聖句

「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。」

(マタイによる福音書第5章13～14節)

『ぞうさん』という童謡をご存知だと思います。この『ぞうさん』の作詞者は、まど・みちおという詩人ですが、この方が素敵な詩を残しておられますので、その一部をご紹介します。

「路傍の石ころは石ころとしての使命をもち、野の草は草としての使命をもっている。石ころ以外の何ものも石ころになることは出来ない。草を除いては他の如何なるものといえども、草となり得ない。」

(まど・みちお『動物を愛する心』より)

イエス・キリストは私たちに、「あなたがたは地の塩、世の光である」とおっしゃいました。これは、「あなたがたには神から与えられた独自の使命がある」という祝福の言葉です。石ころは石ころの、野の草は野の草としての独自の使命があり、他の何ものも石ころや野の草の代わりをすることができないように、あなたにもあなたしかできない独自の使命がある、ということです。

塩と光の働きはとても対照的です。塩は隠し味として使われ、塩が目立ってしまえば、辛すぎて味付けが台無しになります。反対に、ともし火の光は目立つところに置かなければ役には立ちません。塩と光の働き方は全く異なります。

他人が目立った働きに目が向き、自分もそうならなければならないと思ってしまうことがあるかもしれませんが、他人は他人であって、あなたはあなたです。あなたにはあなたしかできない独自の使命があります。あなたには、あなたという存在を諦めないで欲しいと心から願っています。



「今月の聖句」 自己紹介

岸本 大樹(きしもと だいき)

大阪市旭区で牧師をしています。好きなことは、井之頭五郎のように『孤独のグルメ』を実践すること(ただし、B級やC級専門)、スーパー銭湯でボーっとすること…。

